

## 研究部会 活動計画書

### 研究部会の名称

ごみ文化・歴史研究部会

### 研究部会の今期(3～5年間)の活動目的

- 1 研究発表会 小集会(地域毎の廃棄物・環境分野の研究、取組み)、研究発表会への参加
- 2 研究報告会 年2回
- 3 専門誌への寄稿
- 4 海外セミナー
- 5 廃棄物処理関連の見学会、交流会の開催(部会員の増員)
- 6 ホームページの更新

### 研究部会の設置期間

5

年のうち、今年度は

3

年目

### 今年度の活動計画

年次研究発表会における企画セッションの計画・概要

『窒素循環から考える有機系廃棄物処理の歴史』(素案)

日本においても西欧においても、19世紀に至るまでは、し尿や食品廃棄物は肥料・飼料として有効活用され、農地の重要な窒素源となってきました。しかし、19世紀末～20世紀初頭にかけて、①安価な化学肥料の供給、②固形廃棄物の性状変化、③衛生処理の普及が進むことにより、畜産ふん尿を除き、廃棄物中の窒素の多くは循環利用から環境中への放出へと大きく変化しました。現在では、窒素循環の変化に伴う環境汚染が地球規模の問題となっています。

ごみ文化・歴史研究部会では、これまでもし尿処理の歴史を取り上げてきましたが、改めて窒素循環という観点からし尿・有機系廃棄物処理の歴史を捉え直してみたいと考えます。

【プログラム案】

- 1 趣旨説明 ごみ文化・歴史研究部会 古澤
- 2 18世紀の日英におけるし尿の有効利用と窒素循環(仮)  
同志社大学経済学部 三俣延子氏(調整中)
- 3 窒素循環とこれからの廃棄物処理に求められるもの(仮)  
総合地球環境学研究所 浅利美鈴氏(調整中)
- 4 当研究部会メンバーも加わってのディスカッション

※開催にあたり、講演者の都合上により初日もしくは2日目の朝1のセッションを希望いたします。

研究部会としての独自活動の計画・概要

- 定例会として年2回研究会を開催;廃棄物処理・環境分野に関わる文化・歴史について、研究報告会をWEB及び対面で開催。
- 講演会及び企画セッションの講演録を作成し学会員等へ配布。
- 隔月で部会員で情報交換、
- ごみの文化・歴史に係る資料の収集:研究発表会への論文投稿、発表の実施
- 海外への情報発信
- オンラインでの定期勉強会、研究会実施
- 上記の取組についてホームページの更新